

公開研究会「自然災害と居住文化」

CPD 申請中

東南アジア、南アジアでは、大小様々な災害が頻発し、毎年多くの人命が失われている。一方、これらの地域には、災害が日常化することで社会の対応力が醸成されてきたという側面があり、それは居住空間をめぐる人々の生活とその蓄積である居住文化の中に見いだされる。このように捉えると、これらの地域は、東日本大震災からの再生途上にある我が国が目指すべき“レジリエントな社会”の一つのモデルであり、人々の災害対応から学ぶべきことは多いと考える。そこで、本研究会では当該のテーマに関わるフィールドワークを行ってきた建築学および人類学の研究者を招き、災害という研究対象へのアプローチの方法、および居住文化の継承・再編のあり方について議論する。

主催：建築計画本委員会 住宅計画運営委員会 比較居住文化小委員会

日時：2013年11月9日（土） 15時00分～18時00分

会場：建築会館3階会議室

内容：

- | | | | |
|-------------|-----------------------------------|---------|--------------|
| 司会 | 内海佐和子（昭和女子大学） | 記録 | 濱定史（東京理科大学） |
| 15:00～15:10 | 趣旨説明 | | 清水郁郎（芝浦工業大学） |
| 15:10～16:40 | 主題解説 | | |
| | 自然災害への人類学的アプローチとその意義 | | |
| | | | 木村周平（筑波大学） |
| | スリランカ海村における人々の生活の再生と変容 | | |
| | | | 高桑史子（首都大学東京） |
| | インド洋津波被災者の再定住地への移住と社会関係の再編 | | |
| | | | 前田昌弘（京都大学） |
| 16:40～16:50 | 休憩 | | |
| 16:50～17:50 | 討論 | パネリスト | 主題解説演者3名 |
| | | コメンテーター | 牧紀男（京都大学） |
| 17:50～18:00 | まとめ | | 栗原伸治（日本大学） |

定員：40名（申し込み先着順）

参加費：会員 3,000円 会員外 4,000円 学生 1,000円（資料代含む）

（当日会場でお支払いください。）

申込方法：氏名、所属、連絡先を明記のうえ 11月1日までにメールでお申し込み下さい。

申込み・問合せ：前田昌弘（京都大学） maeda@archi.kyoto-u.ac.jp